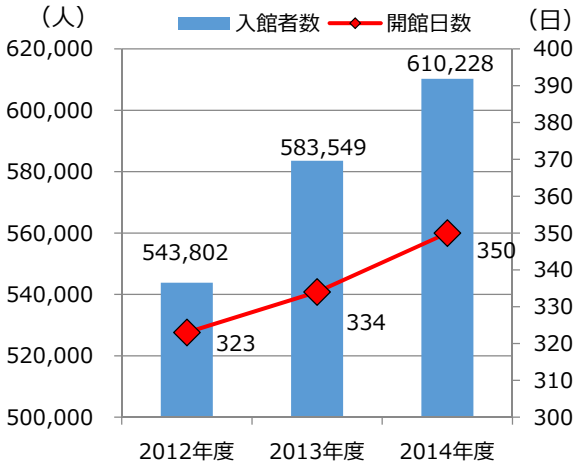
平成26年度　筑波大学附属図書館　事業報告

中央図書館の開館時間を延長　学習支援



入館者数の推移

平成24年度から，中央図書館の開館時間延長の試行を段階的に実施しています。平成26年度は，授業期間中の開館時間延長について正式運用とし，あわせて休業期間についても開館時間延長の試行を開始しました。

授業期間中の開館時間延長の正式運用に伴い，貸出時間や研究個室・セミナー室の設備利用時間もそれぞれ延長しました。とくに設備利用に関しては，平日22時以降も利用できるようになったことから，利用件数は昨年度よりも1,988件（15.3%）増加しています。

３年間の試行を通じて、中央図書館の利用実績が向上し、利用者からの評価も高く，学生の学習時間の確保・増加を促進するために開館時間の延長が有効であることを示すことができました。

医学図書館リニューアルオープン　学習支援

医学図書館2階吹き抜け付近に新設した
カフェスタンド風の座席

耐震工事のため平成25年9月から閉館していた医学図書館は，8月6日にリニューアルオープンしました。

リニューアル後は，落ち着いて勉強ができる１階南窓際付近に仕切りのある机や１人用机，人の出入りが多い階段近くにフラットな机が配置され，個人等利用とグループ利用のゾーニングが図られています。

2階には，講習会を行うことができるコミュニケーションルームが新設されました。また，入館ゲートを入ってすぐ目につく吹き抜け付近には，カフェスタンドのような雰囲気がある座席が新たに設置され，オープン当初から人気の場所となっています。

学生選書ツアーを開催　学習支援

友朋堂書店桜店での選書風景

7月9日に，友朋堂書店桜店において，学生選書ツアーを開催しました。学生選書ツアーとは，学生が直接書店に出向いて図書館に置きたい本を選ぶイベントです。

参加者は学群学生を対象として事前に募集し、当日は7名の参加がありました。参加者たちは，事前に準備してきたリストを見ながら本を探したり，スマートフォンで図書館の所蔵を確認したりしながら，真剣に選書に取り組んでいました。

学生の目線で選ばれた図書39冊を購入し，選定者作成のポップとともに中央図書館2階メインカウンター前に展示したところ，展示2日目までに半数以上が貸し出され，ツアー，選定図書ともに好評を博しました。

平成26年度　筑波大学附属図書館　事業報告

総合科目「知の探検法」の新教材を作成　学習支援

総合科目「知の探検法」では，図書館情報メディア系宇陀則彦准教授と協力し，図書館職員が授業を担当しています。平成26年度は新たな試みとして反転授業が行われ，そのための新教材を作成しました。

反転授業とは，授業で講義，自宅で課題を行うという形態を反転させ，自宅で事前に講義内容を自習し，授業で課題に取り組む形態の授業のことです。

事前学習のための教材として，電子ジャーナルやデータベースの使い方などのいくつかのトピックを設定し，トピックごとに動画を作成しました。作成した動画は，授業の1週間前にmanabaにアップロードし，受講生には，授業に出席する前にその動画を見て自習することが課題として課されました。授業後，7割以上の受講生から「よかった」との感想が聞かれました。

専門図書館でライティングに関する各種セミナーを開催　学習支援

ライティング支援連続セミナー
（11月15日開催，東京キャンパス）

「ライティング支援連続セミナー」の1回を大塚図書館で開催したほか，「英語論文の書き方セミナー」を医学図書館と大塚図書館で開催し，専門図書館での学習支援サービスの展開を図りました。

大塚で開催した「ライティング支援連続セミナー」（講師：図書館情報メディア系　逸村裕教授）には東京キャンパスを利用する大学院生を中心に15名の参加があり，引用に関する知識が得られたと大変好評でした。

また「英語論文の書き方セミナー」は，医学で63名，大塚で35名の参加があり，いずれも満席に近い盛況ぶりで，参加者から「是非また開催してほしい」との声が寄せられています。

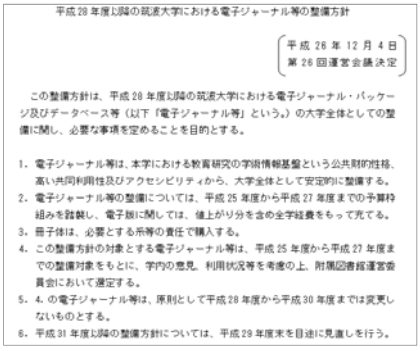
ラーニング・アドバイザーの活躍　学習支援

LAセミナー
（1月29日開催，中央図書館）

大学院生である附属図書館ラーニング・アドバイザーの企画である「LAセミナー」を開催しました。セミナーは，授業を終えた学生が参加できるよう6時限終了後の時間の開催とし，ラーニング・スクエアの利用促進を図るため、初めて学生サポートデスク付近のオープンな学習スペースで行いました。

「文献管理しナイト！　－院生の“自分流”から探るテクニック－」（11月18日開催），「社会科学系院生による量的・質的研究法ビギナー講習会」（1月26日・29日開催）と題した各セミナーには，いずれも約60～70名の参加があり，会場は満席となりました。

「平成28年度以降の筑波大学における電子ジャーナル等の整備方針」決定　研究支援



平成28年度以降の筑波大学における電子ジャーナル等の整備方針

平成26年12月4日
第26回運営会議決定

この整備方針は、平成28年度以降の筑波大学における電子ジャーナル・パッケージ及びデータベース等（以下「電子ジャーナル等」という。）の大学全体としての整備に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

1. 電子ジャーナル等は、本学における教育研究の学術情報基盤という公共財的性格、高い共同利用性及びアクセシビリティから、大学全体として安定的に整備する。
2. 電子ジャーナル等の整備については、平成25年度から平成27年度までの予算枠組みを踏襲し、電子版に関しては、値上がり分を含め全学経費をもって充てる。
3. 冊子体は、必要とする系等の責任で購入する。
4. この整備方針の対象とする電子ジャーナル等は、平成25年度から平成27年度までの整備対象をもとに、学内の意見、利用状況等を考慮の上、附属図書館運営委員会において選定する。
5. 4.の電子ジャーナル等は、原則として平成28年度から平成30年度までは変更しないものとする。
6. 平成31年度以降の整備方針については、平成29年度末を目途に見直しを行う。

平成26年度第26回運営会議（12月4日開催）において，平成25年度～27年度の方針を継承した「平成28年度以降の筑波大学における電子ジャーナル等の整備方針」が決定されました。

整備対象資料については，現在導入中の電子ジャーナル・データベースはすべて継続とし，平成29年3月にデータベースCiNiiの機関定額制が終了することに伴い，平成29年度から新たにOxford English Dictionary（OED）Onlineを導入することが決定されました。世界でもっとも権威がある英語辞書であるOED Onlineは，収録語彙数が多く，語学・文学研究での利用だけでなく，自然科学分野での辞典としてなど，幅広い利用が見込まれます。

電子リソースのバックファイル等を整備　研究支援

研究大学強化促進事業経費により，学術論文データベースWeb of Scienceのバックファイル（1900-1954），Springer社の電子ブックComputer Science分野（2015）1,150タイトル，Biomedical & Life Science分野（2014）550タイトル，Wileyの電子ジャーナルバックファイルの中から利用の要望が多い25タイトル，OUPの電子ジャーナルバックファイルの中から利用の要望が多いMedicineとScience分野の32タイトルを整備しました。

また，ScienceDirectレファレンスワークの中から利用の要望が多い10タイトル，Blackwell Reference Online2014の68タイトルの電子ブックを同経費により整備しました。これにより電子ブックの総数は，約27,270タイトルとなりました。

博士学位論文のインターネット公表についての説明会を開催　研究支援

6月3日に、「博士論文のインターネット公表の基礎知識」と題した説明会を開催しました。この説明会は，平成25年度の学位規則改正により，学位論文の公表の方法として，従来の「印刷公表」から「インターネットの利用による公表」となったことを受けて開催したものです。

当日は，学位論文執筆を控えた博士課程の大学院生のほか，教職員等を含め約20名の参加があり，「今後の参考になった」との声が聞かれました。

平成26年度筑波大学附属図書館企画展「図書館を飛び出した書物たち」を開催　社会貢献

附属図書館の職員が企画し、研究開発室の谷口孝介教授，山澤学准教授のご指導を受けた企画展「図書館を飛び出した書物たち」を，10月20日から11月21日まで，中央図書館貴重書展示室において開催しました。

企画展では教科書や雑誌、テレビなどで日頃目にしている各種資料を解説とともに紹介し，学内外から1,836名の入場がありました。

特別展ウェブサイトでは、一部資料の電子展示ほか、会期中に開催されたギャラリートークや講演会の動画なども公開しています。
http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2014shomotsu/index.html

学園祭企画「図書館これくしょん」がグランプリを受賞　社会貢献

11月2日・3日に中央図書館集会室で，図書館情報メディア研究科宇陀・松村研究室との学園祭共同企画「近未来図書館これくしょん」を開催しました。これは，宇陀・松村研究室の研究成果の発信と新しい図書空間の提案を目的として，近未来の図書館をイメージした展示とイベントを行うものです。

図書館体操，ミニライブ，ビブリオバトル，絵本探し，参加者同士が本や図書館への愛を共有するイベント”Bibliothek Kompanie”など盛りだくさんな内容で，子供からお年寄りまで多くの来場がありました。来場者の投票により学園祭企画No.1を決定する「雙峰祭グランプリ2014」では，グランプリに選ばれました。

平成26年度　筑波大学附属図書館　事業報告

図書館業務においてワークスタディ学生を活用　社会貢献

平成26年度学内ワークスタディ事業により，図書館業務においてワークスタディ学生を積極的に登用しました。
今年度図書館業務に参加登録をした学生は32名で，蔵書点検，書架作業，図書のラベル貼替えや寄贈受入れ図書の調査など，様々な作業を担当してもらいました。学生たちによる蔵書点検冊数は272,589冊で，その他の業務も含め作業時間の総計は4,178.5時間にのぼり，図書館業務の効率化を図ることができました。

つくばリポジトリをJAIRO Cloudに移行　情報発信

本学機関リポジトリ「つくばリポジトリ（Tulips-R）」は，国立情報学研究所（NII）が提供する共用リポジトリサービスの「JAIRO Cloud」上に，既構築機関からとしては初めて移行し，5月21日から正式にサービスを開始しました。
NIIではJAIRO Cloudによって，全国の大学等に対して，機関リポジトリのシステム環境を提供し、運用を支援しています。附属図書館では、つくばリポジトリの今後の機能向上や新たな役割を見据えて、JAIRO Cloudのシステムに移行しサービスを行うこととしました。移行により，システムの管理・運用の負担が軽減してコンテンツの充実により力を注ぐことができ，平成26年度のつくばリポジトリ収録コンテンツ数は、平成25年度から7.5%増加し，33,033件に拡充しました。

図書館ホームページをより使い易くリニューアル　英文サイトも充実　情報発信

附属図書館のホームページをより使い易くリニューアルしました。
リニューアルのポイントは２つあります。第一に，トップページの検索窓から検索を行うときに，Tulips Search（紙の図書・雑誌から電子ブックや電子ジャーナル、個別の論文の情報などさまざまな形態の資料を一度にまとめて検索）とOPAC検索（蔵書検索）とを選択できるようにしたこと，第二に，シンプルでフラットなサイト構成にすることで，利用者が全体を把握し易く，必要な情報に最短でアクセスできるようにしたことです。
加えて，日本語と英語ページを同じ構成にすべく英文サイトの充実を進めており，留学生へのサービス向上も目指しています。

Facebookの「いいね！」が900件を突破　情報発信

3月30日に，附属図書館のFacebookの「いいね！」が900件を突破しました。
平成25年10月1日にオープンした附属図書館Facebookでは，最大のFacebookユーザーである学生を主なターゲットとして広報することにより、図書館の存在、サービスをアピールしています。
また，平成23年の東日本大震災を機に開始したTwitterの平成27年3月末現在のフォロワー数は4,855で，昨年度末から800以上増加しました。

Facebook: https://www.facebook.com/tsukubauniv.lib
Twitter: http://twitter.com/tsukubauniv_lib

筑波大学附属図書館
平成27年3月31日